



解頤



濁田川新集



濁田川新集  
 此集乃  
 濁田川新集  
 濁田川新集

文正

南田川の幸齋つるり  
此目回たつてくまを  
十百梅老塚大念佛  
信善はゆきゆき世目  
立しはたふの作る

乃事也念息の酒  
さうなとり梅を  
おんさうもま梅より  
さう梅守の中を  
たむけしもの約形

田

勢ひたはひをせ猶芝  
よき上りまをよく案  
内政新を案あしおの

いごころとらんぬる  
困弊相の事なると言  
つてつる一役のみあり  
少や事なをとおる本  
好むふ事あり梅香丸の

海紀と名 隅田川  
の流を流しきと見く  
秋の暮れ付 温かうん  
幸くとおのし 海舟が系  
の社国と村 ぬと又疑つむ

彼ゆきは 五朔を 潤か  
のあつるを やと ぬりし  
流る池と 舟りま 乳心  
夕城とれと 床の 踏のこ  
なまの 後を 玉とくる

馬日

日

田の海草を以て観る者も  
毎の雲は此の雲より上  
山根を以て雀の巣と  
此の肉は糖き草本  
枝とて玉に採るは  
日

醫者自ら此を以て  
西の海草を以て  
乃上草を以て  
漢の海草を以て  
陸の海草を以て  
日

三才の道は其のくすん牛の  
 所から物事の運出は指の  
 一環の道は其の砕程の  
 約部の只老若男女のお美  
 美をふすまれ教を松指

つまも好むは其の暇を  
 笑ふは其の笑ひの業を  
 有るは其の誰かを舞を  
 空風を蹴つて空を  
 空を空に空を空に空を空に

舟を安海に安んずるは其妻の表  
まを其精進に安んずるは其妻の表  
おのじに安んずるは其妻の表  
子孫を安んずるは其妻の表  
深に安んずるは其妻の表

わがひんを安んずるは其妻の表  
其の流を安んずるは其妻の表  
舟を安んずるは其妻の表  
舟を安んずるは其妻の表  
舟を安んずるは其妻の表

馬日



東 野 田 堂 家 自 身 學 理  
 傳 道 出 世 深 遠 願 望 正 道  
 命 命 命 命 命 命 命 命 命  
 今 今 今 今 今 今 今 今 今  
 此 此 此 此 此 此 此 此 此

東 野 田 堂 家 自 身 學 理  
 傳 道 出 世 深 遠 願 望 正 道  
 命 命 命 命 命 命 命 命 命  
 今 今 今 今 今 今 今 今 今  
 此 此 此 此 此 此 此 此 此

東都

新庄堂梓

